

- ① 所属名：山形市立病院済生館（やまがたしりつびょういん さいせいかん）
- ② 協会会員番号：3815
- ③ 氏名：椿野幸子（つばきのさちこ）
- ④ 所属県士会：山形県作業療法士会
- ⑤ タイトル：東北作業療法学会リレーメッセージ
- ⑥ 本文：

今回の震災後、朝日新聞のコラムに作家・伊集院静さんが「東北地方は繰り返し地震の被害を受け、復興してきました。痛みを知るからこそ優しさが生まれた気がします。」
「何があってもあきらめずに立ち上がっていく。耐えて、ねばり強く仕事を続ける。そんな日本人の美質を持っているのが東北の人々ではないでしょうか。」という文章を寄せています。

私は山形に生まれ、作業療法士としての養成（実習も含む）や、勤務を含め全て東北で過ごしました。学生時代から、これまでたくさんの患者さんと出会う中で、東北の人はみんなとても強く、優しいと感じてきました。回復への期待、家族への想い、希望を強く持ち、強い意志で努力する姿勢。自分が辛い大変な状況でも、家族を心配し、職員を気遣う言葉を掛けてくださる方がとても多くいらっしゃいます。

痛みを知る人は優しいという言葉を読んだときに、患者さんの顔と今回の震災で被害にあわれた方のニュースや新聞でのコメントが浮かびました。今回の震災で被害にあわれた方が、周囲の方を思った優しい言葉を話されています。東北の人は、やはり強いと感じます。

今、私ができることは・・・。

先日、一般社団法人山形県作業療法士会の災害支援対策の活動で、山形に避難されている方へ音楽を用いたレクリエーションを行う企画に関わらせていただきました。作業療法士が言葉や音楽・運動を用い参加者との時間を共有しました。参加してくださった方が徐々に笑顔になり、笑い、「ありがとう。楽しかった」と言葉を残してくださいました。私は裏方でしたが、作業療法、作業療法士ができることはある、作業療法士だからできることがあると感じました。

山形で働く作業療法士は、今何ができるか、答えを探しています。

東北学会リレーメッセージが、学会開催までの間、東北の作業療法士のネットワークのひとつとして「今、何ができるか」考えている人へのヒントや、答えを導き出すひとつの手段になればとても意味があると思います。そして、第23回東北作業療法学会には是非お越しください。

「今こそ、東北のちから！」山形でお持ちしています。